不断の科学者梅津八三先生

都　留　春　夫

梅津八三先生は1976年12月に古稀の誕生日を迎えられました。平均寿命が70才を越えた今日では，古稀を祝う人びとは稀ではなくなったのかもしれません。しかし学究として止まることなく歩みつづけるということでは，先生は他の追従を許さぬ厳しさを持ちつづけておられます。

先生の講義を聞きはじめてから，その真髄を味わえるようになるまでには何年もかかるというのが学生間での定評です。一度でも授業に出席してみれば，いつの講義内容からでも，先生の普段の仕事が，どれ程厳密な計画と緻密な手順で進められているかを伺い知ることができ，実践をふまえた研究と，その結果をまとめる理論の組立てのたしかさが感じられ，圧倒される思いがするに違いありません。

なみなみならぬ工夫と労力と積重ねの筋道を語られる時の先生は，いかにもたのし気であり，話しのなかに，仕事を通して親しくなられた人びとに対するこころの暖かさかにじみでているのが感じられます。

1974年に雑誌「特殊教育」に寄稿された「重度，重複障害者の教育のあり方」は，特殊教育のみでなく，あらゆる教育の場面にあてはまる原理が簡潔に述べられています。その内容を十分に理解するには，単に熟読するのみでなく，実践に生かしてみる必要があるでしょう。実際に，ひとりひとりの子どもや青少年のことを考えて教育の計画を立て，実行してゆこうとすれば，この論文のなかに，さりげなく書き記されていること，例えば，「適時，適切，適度の手助け」というようなことばが，どれ程入念緻密な思考，考察，計画，工夫，努力の積重ねを必要とすることがらを含んでいるかを思い知ることができるでしょう。

1976年に，重複障害教育研究所の研究紀要創刊号に発表された「心理学的

行動図」からも，先生の50年の研究の集約が感じられ，独自の考えかたが，熟考吟味の末に選ばれた述語と記号と図を用いて，簡潔な文章でつづられているのを読みとることができます。整然と展開されている理論構成が，ご自身にはなお不十分らしく，生きものが生きるということが，止まることを知らぬこどく，先生の考えも，より整った形にむかって静止することなく変化を続けていくように思われます。

数多くの著作を世に残そうとなさらないのも，流動する生のいとなみを静止した活字に閉じ込めることを好まれないからかもしれません。

論文の最後に，空海が最澄にあてた手紙の一節を引いて，

「『文ハ是レ糟粕。文ハ是レ瓦礫ナリ。糟粕瓦礫ヲ受クレバ，則チ粋実至実ヲ失フ』

自らの戒めとして筆を納めて，仕事に還る。」

と結ばれた先生に，このような拙文を捧げることにご寛恕を請い，今後のご健康とご研鑽を祈りつつ，感謝のことばにかえさせて頂きたいと思います。

梅津八三教授略歴並びに業績

1906年12月5日生

［略歴］

1931年　東京帝国大学文学部心理学科卒業
1931—38年　東京帝国大学文学部副手
1938年　東京帝国大学助手文学部勤務
1938—42年　教育総監部研究嘱託　奏任官待遇
1942—45年　陸軍教授　教育総監付
1946—49年　東京大学助教授養学部勤務
1951—55年　東京大学教授教養学部勤務
1955—67年　東京大学教授文学部勤務
1961年　東京大学より文学博士号を受ける
1967—71　関西大学教授文学部勤務
1971—72年　国際基督教大学教授
1972—77年　国際基督教大学大学院教授

1977 ― 国際基督教大学客員教授

その他　文部省教育研究所（後に国立教育研究所）所員，文部省特殊教育総合研究所設置準備協力者会議議長

［博士論文］

1961年　「盲聾二重障害における言動形成についての心理学的研究」

「主要業績」

1931年　「描画作用の機能的考察」『心理学研究』

1938年　「長さについて」『心理学研究』

1952年　「実体鏡による奥行知覚にあらわれる個人差」『最近心理学の問題』千輪浩先生還暦記念事業委員会編（梅津八三，島津一夫）。

1960年　"Studies in the Learning of Language Communication by the Deaf-Blind." *The Japan Science Review*, Humanistic Stndies.

1967年　『言語行動の系譜』　東京大学公開講座 9　東京大学出版会

1968年　「水晶体後線維増殖症による盲乳幼児の生活訓練についての覚え書」『教育科学セミナリ』

1970年　「盲聾児の言語行動の形成」『言語の科学』

1972年　"Recovery from Congenitel Blindness After Operation" *Abstruct Guide of the Twentieth International Congress of Psychology.*

1673年　「開眼術後における形・事物・距離の知覚」『日本心理学会第37回大会発表論文集』（梅津八三，鳥居修晃）

1974年　"Formation of Varbal Behavior of Deaf-Blind Children" *Proceedings of the Twentieth International Conqress of Psychology*

1974年　「重度・重複障害者の教育のあり方」『特殊教育』

1975年　"Postoperative Formation of Visual Perception in the Early Blind" *Psychologia* (Hachizo UMEZU, Shuko TORII, and Yasuko UEMURA)

1976年　「心理学的行動図」『研究紀要』重複障害教育研究所